

稲・大豆作情報 (NO.6)

1. 水稻作況情報田の生育概況(8月8日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概 況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主稈 出葉数	葉 色	
夢しずく 佐賀市 本庄町	6/15 18.1株/m ²	本 年	86.6	379	13.1	39.9	さがびよりは、幼穂形 成期迎えている。(情 報田さがびより幼穂 長1.0mm程度)
		平 年	87.1	389	12.5	39.8	
		平年比	(99)	(97)	(0.6)		
さがびより 小城市 芦刈町	6/20 18.1株/m ²	本 年	75.4	433	12.9	38.5	
		平 年	75.9	514	13.0	39.4	
		平年比	(99)	(84)	(-0.1)		
ヒヨクモチ 小城市 牛津町	6/27 18.1株/m ²	本 年	57.4	724	12.9	41.2	
		平 年	60.9	652	12.9	42.1	
		平年比	(94)	(111)	(0.0)		

注1) 各品種 前作：麦、前前作：水稻

注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

2. 水稻管理

○今週の水管理

夢しずくの圃場では、穂ばらみ期であるため深水管理とし、水を切らさないようにする。中晩生の圃場では、間断灌水とする。ただし、落水期間中も土が白く乾かないように注意し、絶えず黒乾状態を保つようにする。

○病害虫の発生状況

いもち病の発生は、全体的に少ない。

ウンカ類については、「8月20～26日頃」の防除を徹底する。

○今後の施肥管理

さがびよりおよびヒヨクモチの穂肥施肥基準については、「穂肥診断&ウンカ情報について」を参照ください。

特に今年は、高温であるためヒヨクモチ一発くんを使用している圃場でも葉色が淡い場合は、穂肥の施用を検討する。

3. 大豆管理

7月3半旬播種のもの7～8葉期、中旬播種のもの5～7葉期ごろ、7月下旬播種で本葉3葉程度が展開している状況となっている。梅雨明け後、乾燥状態が続いている。このため、大豆の生育が小さく、根域も狭いことから生育が停滞している圃場が散見される。

○培土

大豆が5葉期以上に生育した圃場では、根粒菌の活動を活発にするとともに、根の生育を進めるために培土を実施する。ただし、圃場の乾燥が進んでいる圃場においては、培土は控える。

○灌水 ～日中、3割以上の葉が裏面を見せている状況では灌水の効果が高まります～

干ばつ状態から一気に過湿状態とすると、水分ストレスによる急性萎縮が発生する場合もあるので、極度に乾燥し畝間灌水を行う場合は、以下のことに留意する

★灌水する場合は、明きよや畝溝等を整備し、圃場全体に水が行き渡るようにして、夕方うね間灌水を行う。畝の肩付近まで水を入れた後、直ちに排水するようにする。

★灌水後は圃場に滞水すると、干ばつに耐えてきた根は、湿害に弱く枯死しやすいので、速やかに排水することに留意する。

○雑草対策

イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル（イネ科雑草 10 葉期まで）で防除する。アサガオ類は、圃場内はもとより、まくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取るか薬剤散布での防除を徹底する。（繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため）

○病害虫防除(ハスモンヨトウ)

高温乾燥により多発することが懸念される。一部の圃場では、スポット的に多発している。圃場を注意深く巡回し白変葉の発生状況を把握しながら、適期の防除を実施する。

◎高温乾燥が続いているため、ハスモンヨトウに限らず病害虫が局所的に大発生する恐れがある。部分的に発生している場合は、スポット処理等を考慮して防除を行う。

30年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業改良普及センター

